

岩手県北上市相去町新堤で (Trumpeter Swan) を初認

沢 田 雪 野

1986年3月下旬、日本野鳥の会北上支部支部長伊藤忠美氏から、黒色嘴の白鳥が1羽飛来している
ので、渡去しないうちに確認してほしい旨の電話を受けた。

3月18日飛来してから伊藤氏が、給餌と観察をつづけている。

4月8日午前9時から午後4時まで、伊藤氏、村瀬美江さんと、筆者と3人で黒嘴の1羽の白鳥を観
察した。

他に (Whooper) 160羽 (Bewick's) 30羽 (Whistling) 幼2成2の1家族がいた。

(Whistling) Swan は、観察当日4月8日早朝飛来して1日滞在し翌朝渡去した。

4種類の白鳥を同時観察することができた。

あきらかに他の3種類とは体型、鳴声、泳ぐ行動など違っている点が比較ができた。

5ヘクタール程の堤の西側にいて逆光線で撮影は困難であったが、200ミリ望遠レンズで記録用に写
真撮影を行なった。

3種類と黒嘴の白鳥との異なる点をのべる。

- ・ (1)の写真は特異な胸部から首筋が頭頂まで90度の直角である。
- ・ 前頸と腮と嘴が直線である。
- ・ 後頭から上嘴先端まで直線である。
- ・ 下嘴の付根から半分がサーモンピンクの細い縁どりがみえる。
- ・ 上嘴全部真黒である。
- ・ 鳴声は食用蛙にややいたい声で特異である。
- ・ 行動は後頸を水平に背中から上尾筒まで水平にのせて、嘴を直角に空に向けたままで泳ぐ。
- ・ (2)の写真は、上記の行動が終り姿勢が半分なおったところである。
- ・ 常時姿勢は首筋が直線に立っている。
- ・ Whooper, Bewick's と関係なく1羽単独自由行動をしていた。

その他

給餌人のそばに多くの白鳥が近よるとこの個体も寄るがすぐに遠くの方に行き、人間を全く無
視していたので、人間を知っていて怖がらないのか、知らないのか筆者は一日だけの観察なの
でその判断はできなかった。

現地は、東経141度07分、北緯39度17分。岩手県内陸部の中間で、広さ5ヘクタールの農業用水堤

である。

毎年1月から3月まで地域周辺の池、沼、堤は全面結氷する。周辺は、田園地帯で所々農家がある。松林があり、近くに北上川が流れている。堤内は水深2メートル程で、土手の周囲はヨシが茂って、枯ヨシが立っている。現地は伊藤氏が早朝から給餌観察していて渡来渡去のカウントも行っている。

筆者は、The Audubon Society Fieldguide to North American Birdsの中からTrumpeter Swanの写真と、棲息地図や特徴を知ることができた。北米西海岸周辺に棲息し、1930年狩猟によって絶滅近くなったがアメリカで保護鳥にして、絶滅から守り、1970年には3,000羽まで増えた。1986年6月7日、岩手県宮古市で日本野鳥の会東北6県のブロック会議の開催があり、会場で写真とスライドを使って、Trumpeter Swanであることを筆者は発表したが発同はえられなかった。

6月8日東北ブロック会議に出席した日本野鳥の会常務理事市田則孝氏がアメリカに送ってみましようと言われたので、(2)の写真を呈示し判定を依頼した。6月10日市田理事からミネソタ州、Trumpeter-Swan Societyの、David K.Weaver氏に(2)の写真を送った通知を受取った。6月30日、David K. Weaver氏から、Trumpeter Swanである通知を手紙で受取り、文書のコピーを市田氏より受けとった。

7月19日東京都内井の頭公園内白鳥飼育舎に行き4種の白鳥を見て、(Whooper)と(Bewick's)の中間の大きさであることを確認した。このような経緯から北上市に飛来した黒嘴の1羽の迷鳥は、Trumpeter Swanである確信をえました。

7月20日東京で開かれた、第14回日本白鳥の会(会長松井繁氏)の総会会議場で、日本国内初認のTrumpeter Swanであることを写真とスライドを使用して発表と報告を行なった。

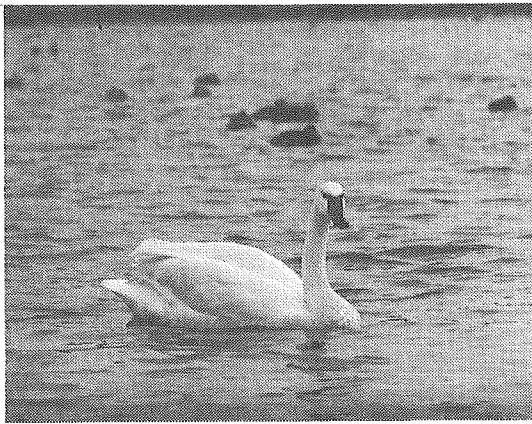
謝 辞

本稿をまとめるにあたりお世話いただいた日本野鳥の会常務理事市田則孝氏、確認通知をしていただいたアメリカ合衆国ミネソタ州Trumpeter Swan Society、David K.Weaver氏、日本白鳥の会会長松井繁氏に深く感謝する。

文 献 The Audubon Society Fieldguide to North American Birds



①



②